



清新二中だより

本校教育目標

- 1 豊かな心で、互いに敬愛できる人（敬愛）
- 2 進んで学び、深く考える人（知性）
- 3 健康で明るく、自ら鍛える人（健康）
- 4 責任を重んじ、勤労を尊ぶ人（責任）
- 5 礼儀を重んじ、他とよい関係を築く人（礼節）

軌道修正

校長 白石 亨

「はい、それでは始め」

有無を言わせない先生の重い声が教室に響く。テストが開始されていく。11月中旬、二学期を締めくくる定期考査が行われた。生徒たちは丸くなっていた背筋を少し張らせ、慣れ親しんだシャープペンシルをキュッと握り直し、解答用紙の白さに負けないように姿勢を整える。定期考査の問題にしっかりと向き合っていく。

定期考査の少し前から、登校する3年生に変化が生じ「にわか二宮金次郎」がたくさん出現した。教科書やノートを手にしながらか登校する生徒が多く見られた。登校の少しの時間も惜しんで歩きながらテスト勉強に取り組んでいた。また3年生の教室を見てまわると熱心にワークの問題に取り組んでいる生徒も見られた。赤色のセロハンシートをワークの上に重ねて、赤色で書かれた解答の文字を隠しながら要点の復習に勤しんでいた。iPadタブレット等のIC機器全盛の昨今だけど、古典的な学習方法も効果があるように思えて微笑ましい。

でもその一方、3年生からは学習がなかなか思うように進んでいないとの声も聞こえていた。あるクラスの学級だよりには「定期考査なのに勉強が全然できていません…どうしよう…」との不安の声があがっていた。

そう、自分ごとで恐縮だが、やはり定期考査前の勉強に関してはホロ苦い記憶がある。

今も昔もテストの前、担任の先生からの指示で「学習計画表」を作成した。テストまであと10日間しかないのか…などと急にあわて出し、学習計画だけは力を入れて綿密に立案した。完璧な学習計画だった。

だが学校から帰ると、すぐに勉強に取りかかれればよいものの、まずはテレビのスイッチを入れて観てしまう。

「そうだ！今夜の巨人vs阪神戦だけは絶対に見逃せないな…」などと自分自身に言い訳をして勉強を後回しにしてしまう。つまるところ苦手なもの、気の進まぬものにはなかなか手を付けず、ずるずると先延ばしにする悪い癖があった。挙句の果てには全く勉強せずに眠り込んでしまう。朝目覚めると「ううっ俺は何ちゅうバカなのだ…」と深く落ち込み、..人間失格..いやいや斜陽か、などと太宰治的な心理状態になる。そのつど反省もするのだが何度も繰り返してしまう。恥ずかしい話、計画的な勉強については本当にダメだった。

もちろん受検勉強は予定どおりに進むことに越したことはないが、思うように進まない人が多いことと思う。今回の定期考査にしても思うように点数が取れずにいて落ち込んでいる人がいるかも知れない。でも..大丈夫世の中は思うように事が運ばない人の方が圧倒的に多数派だと思う。計画どおりに順調に勉強が進んでいる人の方がはるかに少数派であろう。...このようなきこそ大切なのは「軌道修正する力」だと強く思っている。

先々のことまでは深く考え込まず、まずは、今、自分のできることに真摯に取り組んでいく。たとえ少しでも取り組んでいく。徐々にではあるが少しずつ自信が芽生えてくる。再び挫折する場合もあるかもしれないが、そんなことにはへこたれない。凶々しく構えていく。生徒諸君も「運動会」「合唱コンクール」等の学校行事では、最初はダメでも、諦めずに取り組むことで大きな成果を得てきたことを経験してきたはずだ。これに倣えばいい。できなかつたことを悔やむのではなく、最後の最後まで軌道修正を繰り返しながら頑張るしかない。

「解答終わり、そこまで」

張りつめた空気が途切れ、教室にはホッと安堵の吐息が漏れる。定期考査が終了する。テストから解放されて笑顔がほころぶ。にわかにか教室がざわめきはじめ、解答用紙が瞬く間に先生の手元に吸い込まれていく。紙がかさばる音に合わせて3年生のエンジンがまた、加速していく。受検までは諦めずにエンジンを回し続けるしかない。「焦り」「後悔」「自己嫌悪感」を乗り越えて、柔軟に軌道修正しながら走り続けるしかない。